

目的 経済摩擦の増加とともに国際社会の中での日本人の働き過ぎが批判的となり、政府は週休2日制や労働時間の短縮、長期休暇の導入を積極的に実施するよう官公庁をはじめ企業に呼びかけている。本研究ではこのような状況の中で働きバチといわれる男性が、余暇についてどのように考えているのか、また、背広にネクタイといった画一的な服装が中心の男性が、余暇にはどのような装いをしているのか、など、余暇と被服行動について実証データをもとに考察を試みた。

方法 近畿圏に居住する満18才から60才までの男性450名を対象に1988年年12月から1989年1989年1月、配票留置法による質問紙調査を行った。主な質問項目は仕事と余暇に対する考え方や、満足度、余暇の過ごし方および余暇の服装・生活態度・衣生活態度である。データの分析には単純集計およびクロス集計を用いた。

結果 余暇とは生活を楽しむためのものと答えた者が若い世代に多いのに対し、年令が高くなるほど体の疲れやストレスを解消するためのものと答える者が多くなっている。また仕事を中心の生活をしている者が多いわりには、余暇への満足度は高い。レジャーの多様化が叫ばれているわりには、休日の過ごし方ではテレビを見たり、ゴロ寝と答えたものが年代を問わず半数以上を占めており、年令の高い者ほどその割合は高いが、若い層ではドライブなどで生活を楽しむ者も多い。休日における服装は、若い年令層はシャツにジーンズ、年令の高い層はシャツやセーターに替えズボンが多く、女性のファッションが多様化しているのに比べると、男性の余暇における服装はその種類も少なく画一的である。